



卓 話

第10回 本会議 リーダーシップ

2008年国際協議会講演

ビチャイ・ラタクルロータリー財団管理委員



最後の一周が最も苦しいのは、すべてのレースに通じることです。皆さんにとっては、この国際協議会も同じでありましょう。6日間にわたり渾身の思いで臨まれた集中的な研修を経て、世界各地から来年度のロータリーのリーダー中のリーダーが一堂に会したこの集いも、あと数時間で終わろうとしています。

各地区においてロータリーの会員の意義をいかにして高めるべきかに焦点を当てたこの国際協議会から、皆さんは何を持ち帰られるのか、ご自身に問うてみてください。一つ、目に見えずして非常に大切なものは、この一週間に私たちが育んだチームスピリット、すなわち団結心であります。互いに助け合い、学びあうなかで、私たちは李東建会長エレクトの素晴らしいチームとなりました。この士気は、たとえどれほど遠く離れ離れになったとしても、絶えることはありません。この精神のありようは、皆さんがクラブの役員の方々に鼓舞する上で、よい導きとなることでしょう。

ここで、この集いが単なる偶然によるものではないことを銘記していただきたいのです。年次国際協議会は、一世紀を超えてその真価を証明してきた組織の枠組みの中で行われるものであり、その意義の深さは計り知れません。

ここへ出席するために、皆さんは日常の活動をすべて中断され、仕事や家族、友人を残して来られました。皆さんのご経験とご決意、そして合わせた能力は、まさに圧倒的なものです。これより先、皆さんには大変重要なガバナ一年度が控えています。「夢をかたちに」するための決意と奉仕の年、完璧への道をたどる年に備え、奉仕して下さることにロータリーは感謝を捧げます。

どのような組織であっても、最大限にその力を発揮するためには、型と機構、原則、秩序がなくてはならないと、私は考えます。ロータリーはこのすべてを備えています。組織には、時と場所との推移に応える柔軟性と順応性が求められます。ロータリーはこのすべてを備えています。また、組織に

は、目的、創造性、意欲、献身がなければなりません。ロータリーはこのすべてを備えています。

ここで学ばれたすべてが皆さんにとって必要となります。来年度、皆さんの地区のロータリアンは、豊かな知識と誠実さとを備えた献身的で敏腕なガバナーを求めることでしょう。そして、すべての答えを皆さんに求めてくるに違いありません。その答えの詰まった場所が、この場です。ここで皆さんを導いてくれた優秀な方々は、皆さん同様、一つの信念に向けて無償で奉仕する人々です。雇いたくてもお金で雇うことのできない人物ばかりです。

現在の皆さんには、使命を遂行するのに、丸1年というたっぷりの時間があるように感じられるかもしれませんが、しかし、1年に365日しかないのは来年度も同じです。ですから、任務遂行の計画は今、立てなければなりません。この一週間が瞬く間に過ぎていったように、皆さんの任期の日々も時間も一瞬一瞬も、あっという間に過ぎ去ってしまうことでしょう。

皆さん、仲間のロータリアンから榮譽と信頼とを託され、リーダーとして尊敬されていればこそ、皆さんはここに送られてきたのです。しかし、私たちは常に、すべてのロータリアンがリーダーであることを肝に銘じておかなければなりません。ロータリアンは職業においても地域社会においても尊敬される存在です。ですから皆さんはリーダーの中のリーダーという特異な立場にあるのです。このような立場にある皆さんは、謙虚さをもって権限を担いながら、賢明で有能なリーダーであらんとする機会を与えられているだけでなく、そうする責任があるのです。皆さんの成功は、目標へ向けて支えてくれる仲間の心をつかむことへの自信があってはじめて可能になるものです。

皆さんは、具体的に何を達成する覚悟でしょうか。どのような手段を用いられるのでしょうか？ また、誰に助けを求めようとお考えでしょうか。

僭越ながら、ご自身のために、これらの質問に対する答えを書き出すようご提案申し上げます。その答えをロータリーの綱領と会長の強調事項に照らしてみるなら、ご自身が達成したいと願うすべてに網羅されていない事柄が見えてくるはずですよ。

私は日ごろより、しかるべき結果を得るには、焦点を定めなければならぬと固く信じております。狙いを定めずし

て行う活動は実らないのが常です。強調すべきことを決めるのは皆さん一人ひとりですが、ぜひともロータリーの基本理念の骨子となる四大奉仕部門の枠組みと指針に沿って活動するよう、クラブを導いていただきたく存じます。四大奉仕部門こそ、ロータリーが草の根で息づく場所であり、私たちがクラブと地区の活動に参加する土台であり、より良く奉仕するための道しるべとなるものです。この骨子の果たす重要な役割を認識した2007年規定審議会は、四大奉仕部門を標準ロータリー・クラブ定款に組み込むという制定案を圧倒的多数をもって採択しました。

朋友ロータリアンの皆さん、この四大奉仕部門のうちでも、特に職業奉仕部門を主眼の一つとしてご考慮いただけるよう、私は強く願っております。昨日は、渡辺好政理事より大変感銘深いご講演がありました。渡辺理事のご了解の下、私はここで今一度、すべての国において事業および職業の行動規範の改善が緊要に求められていることを皆さんに訴えたいのです。職業奉仕は、ロータリーの存在を他団体から際立たせ、ロータリアンがその威力を最大に発揮できる土俵です。

地区ガバナーとして、皆さんはほかのロータリアンから敬意とともに信頼を仰がれる手本となります。謙虚さと誠実さと思いやりの心を持って、ロータリアンがいかなる行動を取るべきか、その模範を示す素晴らしい機会が、皆さんには与えられています。

来たる年度の強調事項が明確になった今、既にいくつかの決断をしておかれるのがよいでしょう。皆さんの前には、膨大な日課がうず高く積み重ねられるように感じられるかもしれませんが、それらを即座に片付け、机の上に積んだままにしておかないことです。そのような事務的な仕事の山を見るだけで、肝心な真の任務に必要な熱意と活力が吸い取られてしまいます。ちなみにクラブ役員および地区のチームも同じ決意を固めるなら、皆さんのお心も大変軽くなるとういうものです。

常に毅然とした姿勢を保つ一方で、ロータリーが任意の団体であることを忘れてはなりません。自分のチームメンバーに対して、あたかも会社の部下であるかのように、「これをやりたまえ、さもなければ・・・」と命令することはなりません。皆さんは、彼らを説得し、明確な責務を託し、できる限りの支援をしなければなりません。助言は極力控えることです。ロータリーのために彼らが実施する活動はすべて彼ら自身の手によるものであるという自立を促すと同時に、結果に対しては責任が求められ、実績が見届けられるということを明確に伝えておくべきです。このような方針は、ガバナーの荷を軽くし、ロータリーにおけるチームの関与を活発にします。

クラブへの公式訪問はできるだけ早めに行ってください。自身の仕事を正確に判断するためだけでなく、将来の指導力を探るためでもあります。クラブの中から将来のリーダーを開発するのは、皆さんの義務です。任期を迎える前に、地区の

ロータリアンを観察されておくようお勧めいたします。熱心さと勤勉さと倫理的な行動とがうまく調和された人物を探し、地区に奉仕するチャンスを提供するのです。

また、年度を通じて、若い層の会員にも目を向け、クラブ内でリーダー的な役割を果たすよう奨励してください。彼らが、今後、地区のリーダー、ロータリーの国際的なリーダーとされるよう育てていくのです。私たちは皆、これまで私たちを育ててくれたロータリーのリーダーに負うところが多いと言えます。私たちにできる唯一の恩返しは、私たちの後にリーダーとして率先する人材を育てることです。

そうです、皆さん、今日、地区を率いることには、かつてないほど難しい責任が伴います。各地区、クラブ役員、委員会委員がそれぞれの役割を担っています。

ロータリーが期待するリーダーシップとは、知性と誠実さと勇気だけでは足りません。ガバナーとして成功される皆さんは、時折の逆流にあって吃立(きつりつ)し、敗北から這い上がっては、究極の目標に向かってひたすら進む力を身につけていなければなりません。過去の過ちを教訓とし、その経験から学ぶことです。過ちを恥ずることなかれと、私は申し上げたい。今日ここに、昨日より少し賢くなった自分がいるのだと思うことです。

リーダーである皆さんは、ときとして勇気を試される場面に遭遇することでしょう。その際に重要なのは、自分の信念を貫き通すことです。かつてマーガレットサッチャー元英国首相がこのように断言されました。「道の真ん中に立つことは非常に危険です。両側から車に押しつぶされてしまうこととなります」このような時、私たちはいかに対処すべきでしょうか。このような状況に遭遇し、道のどちらかの側に移動した場合、問題に対する自分の見解を表明したことになるのを忘れてはなりません。そして一旦その立場についたなら、周りからどんな批判を受けようとも、どのような困難が待ち受けていようとも、自分の立場を死守しなければなりません。

信念とは経験から自然に生まれ、育っていくものです。皆さんがチャンスに気づき、難しい選択を行い、意識を集中させ、ときには勇敢な決断を下すことができるなら、命の限りを精一杯生きていると言えるでしょう。生きていればこそ、喜びと悲しみ、高揚感、そして自らの取った行為の結果が招いた苦しみ、これらを感じるができるのです。これが、信念というものです。そして、これが真の指導者のあるべき姿です。信念が深まれば、それに比例してロータリーへの貢献も深まるのです。私自身、政界、ビジネス界、そしてロータリーにおいても、自分の信念を貫くために決断を迫られたことが何度もありました。自分のことを勇者と胸を張って言えるわけではございませんが、そのような決断には勇気が求められました。良きリーダーは堅忍不拔であるだけでなく、勇敢でもあります。勇敢な精神とは、堅忍不拔のそれとは遠いものです。堅忍不拔とは、危険や逆境や苦しみを決然として耐え抜く力ですが、勇敢な精神とは、危険を冒し、人跡未踏の地へ足

を踏み入れ、成功を目指しながらも失敗を恐れず、冒険に立ち向かってゆく気概のことです。つい先ごろもこのような状況に立たされたばかりです。私は、自分の信念と威厳を損ねてまでその闘いを勝ち抜きたいとは思いませんでした。結果、負けることにはなりましたが、私は何にも恥じることなく凜として立っていることができます。

会長エレクト研修セミナーは、皆さんにとっては指導力を発揮できる最初の機会となりましょう。「夢をかたちに」という2008-09年度のテーマとともに会長エレクトの強調事項に力を入れる機会です。これは夢をみようというテーマではなく、他者の夢を現実のものとするために立ち上がらんとする会長エレクトからの切実なる訴えであることを、どうかご銘記ください。世界平和を願うような大きな夢もあり、十分な食べ物にありつくことや読み書きができるようになりたいといった当たり前と思えるような夢もあるでしょう。ロータリーのリーダーである皆さんは、地区に対して抱く夢をどのようにかたちにしていくかを考えなければなりません。

また、このテーマをクラブにも伝え、それに沿って具体的なことを実現するよう奨励しなければなりません。7月の第一週目に発行が予定されている最初の月信とその直後に開始される公式訪問は、このメッセージを地区の全ロータリアンに届ける絶好の機会です。これに先んじてPETSと地区協議会で伝えるのもよいでしょう。いずれにしても、これはガバナー自身が行うべき任務です。ガバナー補佐に任せられる仕事、あるいは任せべき仕事は多数ありますが、公式訪問はこの限りではございません。すべてのクラブをご自分の足で回り、小さなクラブであっても、大きなクラブと等しい熱意を持って語りかけてください。たとえわずか10名の会員しかいないクラブであっても、ありったけを投げかけていただきたいのです。それも指導力の証となります。皆さんの真心と意欲が通じるなら、翌年、皆さんの後任が同じクラブを訪問するときには、会員が15名、あるいは20名に増えているとも限りません。

この数年においてロータリーの会員数が世界的に降下をたどっていることから、私たちは会員の勧誘に必死になるあまり、ロータリー会員基盤の原則の真髄を忘れがちになっています。新しい会員を誘う際の規則と手続きというものを、私たちはすっかり忘れ去っています。職業分類の原則は無視され、会員の資格にも注意が払われていないのが現状です。加えて、会員候補者にロータリーに関する情報を提供したり、出席義務や親睦や奉仕の重要性を説いたりするクラブへの同化のプロセスが省かれてしまっています。永遠の原則を守らなかつたがゆえに、私たちは永遠の価値観を失ってしまいました。従って、今日の企業幹部や経営者たちがロータリーのような団体に入会したいと思わなかつたとしても、それは当然の結果と言えましょう。彼らの視点からすれば、ロータリーもまたあるほかのクラブとなら変わりはないのです。

そうであるなら、今、私たちが成さなければならない仕事とは、ロータリーへの揺るぎない信念、新たなる信念を同胞

ロータリアンに与えることです。すべてのロータリアンは、ロータリーの会員となることは、ゴルフクラブや囲碁クラブの会員となることとは異なるのだとする信条を支持する必要があります。つまり、基本的な原則に戻り、過去100年あまりにわたり、親睦と奉仕において私たちのクラブの発展に寄与し続けてきた永遠の価値観を尊ぶことです。

数年前、同じクラブの会員からクラブをやめるつもりでいると打ち明けられました。その理由を聞いてみたところ、彼はこう言いました。「ロータリーは何もしないし、自分にも何の恩恵も与えてくれない。一体、誰が必要としているのだろう」

私は答えませんでした。このような質問をしてくる人間には、たとえどのような形で説明したところで、分かってもらうことは無理だと察したからです。しかし、ある意味において彼は正しいのです。多くの場合、行動を起こすのはロータリアンであって、ロータリーは何もしません。では、何の恩恵もないというのは本当でしょうか。私たちは、結婚や宗教や職業など、価値あるものから何かを得るのと同様に、ロータリーからも何かを得ていると、私は思います。自分が投資しただけのものが得られるのではないのでしょうか。

それでは、ロータリーを必要としているのは誰でしょう。

何年も前に国際協議会の席で、二人の次期ガバナーを前に私が話をしたとき、この会員が一緒だったならと思わずにはいられません。アジアから来ていたロータリアンに協議会の後の計画を尋ねたところ、彼は、家畜の人工授精について学ぶためにウィスコンシン大学を訪問する予定だと答えました。彼の国では主な蛋白源を乳製品に頼っていることから、牛乳の生産量を改善する方法を検討しているということでした。

私が口を挟む間もなく、オーストラリア出身のもう一人のガバナーが「ちょっと待ってください」と割り込んできました。「私の地区の乳牛は世界に誇れる質ですから、私たちのやっていることをお教えしましょう。適切に活用してくれるなら、地区の世界社会奉仕を通じて、必要なものをすべて提供してあげますよ」と、彼は申し出ました。

同じ小さな襟ピンを着用して、たまたま同じ場所に居合わせた二人が、出会った途端に意気投合し、奉仕という共通の目的の下に、互いを信頼し合ったのです。この出会いのおかげで、何万人、いや何百万人という人々が恩恵を受けるに至ったことを私は思います。

戦後間もない1950年代の終わりのことです。4歳の少年が2歳の妹を抱きかかえて、粉乳の配給を受けるために並んでいました。妹はミルクにありついたものの、兄のほうは年齢でひっかかりミルクをもらえませんでした。4歳児に与えるミルクがないほど、粉乳は不足していたのです。この光景を目撃していた私にとって、先の二人のロータリアンによる会話がいかに感動的で嬉しいものであったか、お分かりいただけただしょうか。

この二人は、「夢をかたちに」されたのです。

それでは、ロータリーを必要としているのは誰でしょう。

この質問は、タイ北東部にある第3340地区のソムチャイ・キアラナイパニット元ガバナーに答えていただくのが一番よいかもかもしれません。ある日、ソムチャイさんの事務所のドアが開いて、車椅子の男性が入ってきたと言います。片足しかないその男性は、妻と娘のために食べ物を探しにタイとカンボジアの国境沿いを歩いていたときに地雷を踏んでしまったそうです。ロータリーには、地雷犠牲者のために義足を提供してくれるプロジェクトがあると聞きつけて、やって来たのです。何カ月も経ったある日、胸を張り堂々とした健康そのものといった男性が同じドアをくぐってきました。その男性は涙ながらにソムチャイさんとロータリーにお礼を述べました。大きな障害を負っていた彼が、一人で歩き、職を得て、家族にもまともな生活を送らせてやるようになったのです。

誰がロータリーを必要としているのか。

その答えは、ロータリアンが約束を守ったおかげで、ポリオという悲惨な病の犠牲になることなく元気に暮らしている何億という子供たちの中にあります。

誰がロータリーを必要としているのか。

その答えは、ロータリアンが分かちあってくれたおかげで食べ物に困ることなく暮らしている世界中の子供たちの中にあります。ロータリーの後援する学校で読み書きを学ぶ少女たち、ロータリーの職業訓練プログラムで技能を身につけている少年たちの中にあります。一瞬のうちにすべてを失った無数の津波の被災者に聞いてみてください。ロータリーがただちに救援にやって来て、将来への希望をもたら

したことを。彼らに聞いてみれば、ロータリーを必要としている人がいるかどうかという質問は決して生まれてはこないはずですよ。

しかし、最後にロータリーを必要とするのは誰か。

それは皆さんと私です。人の役に立ちたいという内なる願いを叶えるために、また、「夢をかたちに」するために、ロータリーを必要としているのは、皆さんと私と世界中のロータリアンです。

ですから、地区とクラブに戻り、ロータリーの奉仕とはこちらの都合に合わせて行うものではないのだと、どうか仲間の会員の方々に伝えてください。ロータリーの奉仕とは、常に新たな時代に乗り込み、新たな挑戦を受けて立ち、新たな門出を迎え続けるものなのです。

いよいよお別れのときが来ましたが、私はロータリーに敬意を表します。そして皆さんをここに送り出してくれたクラブに敬意を表します。また、この素晴らしき私たちの組織が尽くしてきた業績と忠誠で敬意を表します。そして最後に、私は皆さんに敬意を表します。明るい明日に向かって、自信と勇気を携え、完璧への道へとそれぞれの地区を率先してくださる皆さんを称えます。自信と勇気を携え、完璧への道へとそれぞれの地区を率先してくださる皆さんを称えます。

それでは皆さん、出でて奉仕し、「夢をかたちに」していただきましょう。栄華と栄誉に勝る勲章を勝ち取らんと勇み出で、先頭を切ってください。今、皆さんは、人の心を射止める闘いを率いるのです。